

令和2年度 調布市障害者地域自立支援協議会

非常時の地域ネットワーク作りワーキング

テーマ：「災害時の通所系事業所と相談支援の連携について」

第1回ワーキング

日時：令和2年10月15日（木） 15時半～17時半

場所：総合福祉センター4階 生活支援室・クローバー室

参加者：委員 8名 事務局 8名

小テーマ 「ひので福祉ネットワークと調布の現状・今後のワーキングについて」

内容：東京社会福祉士会災害委員会副理事・やまもと社会福祉士事務所所長山本氏より、ひので福祉ネットワークについての話題提供を受けた。

これまで2回開催したプロジェクトの報告を行い、今後の方向性について検討した。

まずは作業所等連絡会の中に防災部会を作り、意識のある方から始めていくこととなった。

また、調布市とサイボウズの協定について情報提供を受け、今後の情報共有・情報発信について協議した。

荒川区では災害時等に円滑に福祉避難所を運営するために区と協定を締結しているという情報も併せて提供してもらった。

質問や意見

- ・山本氏への質問として、当初は災害時のネットワークに行政が入っていなかったが弊害はなく、進捗状況の確認や情報共有を行っていた。
- ・現在は障害施設のための防災協力協定だが、将来的にはハートワークフェアの参加事業所も追加していきたい。
- ・スタートする前に各事業所で困っている共通項を見つけ、組織の設計を行うことが大事。
- ・事業所間の温度差は必ずあるが、まずはできるところから始めることが大切。
- ・ネットワークは障害特性上避難所へ行けない方への居場所提供とはなっていないが、緊急時に利用者が来てしまうことは各施設に伝えて準備等を促している（特別支援学校含め）。
- ・日の出町は各事業所と活発なやりとりがあり、相互協力ができているが、実際に動き出すまでに5年はかかっている。調布も規模は違うが実働までに時間がかかることは覚悟すべき。
- ・ネットワークが機能するには現場の職員と意見を共有する場が必要。横のつながりを作る場はどのような所がよいか。
- ・市にも入ってもらうことが前提なのであれば、ツールは市と同じサイボウズにすべき。
- ・地震と水害は区別したい。また、住民からの写真提供などリアルな現状を知ることができる。
- ・各家庭で災害時どこに避難するか把握してほしい。そのためにも個別避難計画の周知が必要。
- ・実際避難所を利用する人が情報を知らず「きっと・・・だろう」が多い。情報の発信が重要。
- ・避難所ごとに温度差のある対応を変えるためにも地域の意識作りが必要。

まとめ

今回のワーキングで「できるところから始めてみる」「横のつながり」というキーワードを得た。今年度はまず始めてみるということが目標となり、その第一歩としての取り組み方についてプロジェクトで検討していく。

第3回プロジェクト

日時：令和2年11月5日（金）10時半～12時

場所：ちょうふだそう 活動室

参加者：委員3名 事務局6名

小テーマ 「①緊急時の連絡相談体制について②通所系事業所の自主的な避難所の可能性について」

内容：「前回ワーキング振り返り」

- ・10月の作業所等連絡会にてワーキングの報告と防災部会の提案を行った。場所の貸し出しを検討できるという作業所からの意見。
- ・お互いに手を差しのべる関係となるには職員間の交流が課題で、連絡会の交流会以外にも交流が必要か。
- ・要支援者は障害者だけではなく高齢者も多い。対象者をどのように絞って進めていくかが課題。

「①緊急時の連絡相談体制について」の主な意見

- ・作業所等連絡会の中で高い関心を寄せてくれる事業所を中心に内容を検討し、その結果をプロジェクトに提案してもらおうとよい。
- ・防災部会の情報を市と相談支援のラインワークスと共有するか。
- ・大事な情報が埋もれないようシンプルにまとめる方法が難しい。
- ・ツールを何にするか。LINE・iQube・サイボウズなど作業所等連絡会で検討してもらおう。

「②通所系事業所の自主的な避難所の可能性について」の主な意見

- ・調布では自主避難所はないが、風水害時の福祉一次避難場所としてすこやか・総合福祉センターが新たに設定された。
- ・東京都社会福祉協議会が始めた広域災害時の支援団体等の人材派遣は申し込み制。
- ・荒川区では、災害時等に円滑に福祉避難所を運営するために区と協定を締結している。プロジェクトメンバーで訪問したい。
- ・調布市で二次避難所になるための条件が不明瞭
- ・震災時の一時^{いっとき}集合場所の福祉バージョンを作れないか
⇒物資はないが、安否確認・情報集約ができる場所というイメージ
- ・避難所に障害特性で行けない人が多くおり、そのような方が行きやすい場所としては作業所・放課後等デイがよいのではないか。
- ・2月の市長懇談で企画書などを出せると良い。

まとめ

まずは水害時の一時^{いっとき}集合場所を検討し、自主避難所へと広げて検討する。避難場所として求められる内容によって手を挙げる事業所は異なるので、前向きに検討できる内容にした方がよいのではないか。今後は風水害時に福祉避難所として場所を提供してくれる事業所のあり方を話し合っていく。

第4回プロジェクト

日時：令和2年12月11日（金）10時半～12時

場所：ちょうふだそう 活動室

参加者：委員3名 事務局6名

小テーマ 「福祉避難所について先駆的取り組みを行っている荒川区と zoom 会談」

内容：荒川区社協防災担当津曲氏への質問・確認

- ・荒川区は地震を想定し二次避難所の前に区立の施設が二次避難所より先に福祉避難所を開設する。福祉避難所開設は発災後2, 3時間後を想定。
- ・受け入れは対象者リストを元に行う。対象外の方は断るしかないが、行き場がないと休憩所で落ち着くまで過ごしてもらうしかない。
- ・職員ができることは限られている。発災翌日以降いかに地域の力を借りられるかが課題。
- ・避難期間が長引いた際の事業運営, 作業所開所中に発災した際の対応は現在検討中。
- ・東日本大震災時に、障害者が声を出してしまい避難所を転々とし、倒壊した家に戻ったという話を聞いたことも福祉避難所を検討するきっかけとなった。
- ・民間施設はまだ福祉避難所となっていない。障害はほぼ区立の施設。行政のみで行う予定ではないが、民間には広さや設備がなく補償もまだはっきりしていない。
- ・荒川区は地震のみ想定。水害は高台が一部しかないため、他区への避難を勧めている。昨年の台風被害はなく、今後検討の予定。
- ・避難所間の情報共有ツールはまだ未設定。大きな課題ではある。
- ・障害特性に合わせた避難所の対応は検討中。聴覚障害者は一部の避難所に集合してもらい、手話通訳を派遣予定。

主な意見

- ・調布市は安否確認要員の配置が決まっているが詳細は未決定で稼働はしていない。
- ・荒川区は区の施設が多いことが調布と大きく異なり、行政主導ができています。
- ・避難所のスペースの計算, 家族の付添制限は参考となった。
- ・避難先がわかっているだけで安心につながる。それぞれの避難先を示す方法が必要。
- ・自助からではなく、できない人に対する支援が必要。

まとめ

今後も作業所等連絡会と連携を図り、通所系事業所とのネットワークのあり方について検討していく。作業所等連絡会で再度案内し、有志で集まる予定。今年度の成果として情報共有訓練を行う。まずはツールの決定が必要。

第5回プロジェクト

日時：令和3年2月9日（火）10時半～12時

場所：ちょうふだそう 活動室

参加者：委員3名 事務局6名

小テーマ 「一時待機所（仮）の機能と役割整理」

調布独自の福祉避難所を「一時待機所」と仮称し、今まで協議した意見を整理し、共通のイメージを持つため「一時待機所（仮）」の役割と機能について整理した。

内容：「一時待機所（仮）」の機能の案として今までの意見から下記の内容について意見交換した。

- ・避難所・福祉避難所に行くまでの待機場所
- ・台風や大雨が過ぎ去るまでの場所のみを提供
- ・ネットワークを活用して受け入れ体制を確認（混み具合、共有等）
- ・一時待機所と障害福祉課と連携し、次の避難所を調整
- ・利用希望者の相談調整
- ・利用者と避難所をつなぐ役割
- ・案内・情報提供

主な意見

- ・市は避難所の対応が中心になるため、災害の最中にどこまで密に連絡を取れるかは不明。各待機所で情報を共有し、そこから障害福祉課に相談ができるとよい。
- ・障害福祉課ではリアルタイムな情報が得られない可能性あり。防災課のツイッターなどを確認したほうが早い。
- ・情報共有：災害前・災害中・災害後と分けてそれぞれ方法や内容の検討が必要。
- ・開設時期：大雨警報・洪水警報警戒レベル3から。
- ・対象者：想定は難しいが、身体障害の方は総合福祉センターに行くと思われるため、結果的には知的障害の方が多いと思われる。一般など対象は拡大せず検討。付添人数の検討も必要。
- ・アナウンス：個別がよいのでは。市報では周知が広すぎる。範囲・方法は検討が必要。
個別避難計画利用も検討する。
- ・開設条件：障害福祉課から各事業所の負担を考え、平日日中（作業所開所中）を基本は想定したらどうかという意見があったが、24時間対応や土日・夜間対応、情報収集のみなど機能を3パターン位に分けて検討することになった。事業所ごとに開所時間が異なってもよい。
- ・一時待機所の次の行き先は自宅に戻ることが一番多い。自宅に戻れない人は障害福祉課に相談
→必要時は災害本部にも相談していく。

- ・ 情報提供：児童は複数施設を利用していることが多く、情報収集がメインとなるのでは。情報発信であればSNSでもよいのか。信頼ある人からの情報が効果的。
 - ・ 台風時は落ち着くまでいられる場所を一番求められているのではないか。
 - ・ 小規模事業所が二次避難所として市と協定を結んでいる。
- ＊手を上げてくれる事業所がどの程度あるのかにもよるが、スペースなどの検討も必要。

まとめ

- ・ 作業所連絡会における市長との懇談の際に、プロジェクトで話し合われた内容を提言する。
- ・ プロジェクトで話し合った「一時待機所（案）」のイメージ・課題をワーキングであげて、1年間の成果を報告すると共に次年度に向けた意見を頂く。
- ・ ラインワークスを活用してネットワークを作り、災害時に備えた情報共有のあり方を試験的に運用する。
- ・ 次年度はプロジェクトメンバーを増やしてネットワークの土台を作っていく。

これまでの到達点

- ・ プロジェクトを3回行い、調布独自の障害のある人の避難所について検討した。
- ・ 結果、障害のある方が一次避難所で過ごすことは難しいので、台風や大雨が過ぎ去るまでの間に過ごす場所、利用者と避難所をつなぐ役割、情報提供の役割が必要であることがわかった。
- ・ メンバー間で「一時待機所（案）」について時間をかけて検討した。
- ・ 仮称「福祉防災ネットワーク」を立ち上げ、ラインワークスを活用して情報共有を行っていくことになった。

今後の展望と課題

通所系事業所との連携するネットワークを「福祉防災ネットワーク」を仮称し、プロジェクトメンバー3名を発起人としてスタート。作業所等連絡会から有志を募り、「一時待機所」について検討していく。

市が協定を結んだグループウェアのサイボウズは活用方法など未知な部分が多く、連携はまだ難しい。試行的にラインワークスを利用し、情報共有の訓練をしていきたい。市としては安否確認対象者がどこに避難したのかは把握したいが、どのような情報連携をするのか等まだ未決定な点が多いので、来年度のワーキング及びプロジェクトで検討していく。